



## 九州支部「第19回九州支部大分大会」報告

源泉数2800ヶ所以上で日本の総源泉数の約10分の1を占め、湧出する湯量も日量137,000キロリットルにも及ぶ日本最大の温泉町であります別府市に位置し、創立100年の歴史を有します別府大学にて2012年度の九州支部大会が、12月1日（土）に開催されました。

参加者数は148名（一般79名，学生69名），講演数は68件（一般講演は56件，学生賞講演12件）となり，一般講演は午前の部と午後の部での3会場，学生賞は1会場で行いました。今年は大分大会のポスターを作成し日本生物工学会の各支部に配布しましたところ，関西方面からも複数の発表がありました。どの会場も熱心な質疑討論が行われました。昼の休憩時間には支部評議会が開催され，九州支部の諸先生方には短時間での教室移動をお願いすることになりましてご迷惑をお掛けしました。またお忙しい中，座長ならびに学生賞審査をご担当頂いた諸先生方にもこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

13時10分からは，赤松隆九州支部支部長の挨拶の後，原島俊会長による「酵母の育種理論と育種技術の発展とともに35年」と題した特別講演がありました。先生の35年間の「酵母の育種理論と育種技術の発展」のご研究から世界の先端の酵母研究史をお伺いさせて頂くことができました。1977年に「酵母における接合型変換の遺伝学的研究」の博士論文で工学博士号を取得され，その後は酵母の古典遺伝学から分子遺伝学へと進められ，さらに酵母の分野での基礎と応用の垣根を取り払われました。また近年では新しい「多様性創出ゲノム工学」の概念を提案なされるなど興味深いお話でした。続いて昨年生物工学賞を受賞なさいました清水和幸先生による「細胞の代謝調節制御機構の全体像はどこまで明らかになってきたのか」と題した特別講演がありました。清水先生は大腸菌細胞を中心に，システム生物学のアプローチによる代謝制御システムの解明についてお話して頂きました。調節タンパク質（あるいは転写活性因子）の役割に注目した各種制御に関する研究成果をお伺いすることができました。お二人の先生方にこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

17時から18時30分までキャンパス内食堂「B's」キッチン三郎にて約60名の参加によりミキサーを行いました。実行委員長岡本の挨拶に続き，原島会長からの日本生物工学会90周年記念行事へのお礼も兼ねられた祝辞，別府大学豊田寛三学長による祝辞，続いて赤松支部長の乾杯のご発声を頂いた後，大分酒造組合を通じ16社の蔵元様よりご提供して頂きましたご自慢の酒類を堪能しながら，参加者間での交流が深められました。この場をお借りしまして大分酒造組合並びに各蔵元様に厚く御礼申し上げます。ミキサーの中で，学生賞の表彰式が行われました。本年度の受賞者は4名で，博士の部は松沢智彦さん（九州大），修士の部は加唐圭太さん（九州大），島藤千那津さん（九州大），内田貴之さん（崇城大）でした。審査委員長の赤松支部長の講評の後，各受賞者へ賞状と記念品の贈呈が行われ，受賞者本人から一言ずつコメントと今後の抱負について述べてもらいました。最後に，安部淳一副支部長の締めにより，ミキサーを終了しました。限られた時間の中でもご参加の皆様と懇談の時間を持てたことを嬉しく思っております。

2013年度は12月7日，佐賀大学での開催を予定しております。多くの皆様のご参加を期待しております。

（岡本啓湖）



特別講演会の様子



学生賞受賞者の面々